



一般社団法人 電波産業会  
Association of Radio  
Industries and Businesses

No.828 2012年4月2日



### 平成 24 年度の事業年度を迎えて

一般社団法人電波産業会  
事務局長 若尾 正義

東日本大震災から一年以上が経過いたしました。今もなお被災地において不自由な生活をされている皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い地域の復興をお祈り申し上げます。

昨年度は、会員の皆様のご協力や関係機関のご支援のお陰をもちまして、一般社団法人として初年度の当会の諸事業を順調に遂行することができました。心から厚くお礼申し上げます。

平成 24 年度は、去る 2 月 24 日に開催されました第 3 回理事会においてご承認いただきました事業計画に基づき、事業を積極的に推進して参りますが、主要な事業は次のとおりであります。

まず、無線通信分野につきましては、1 月に開催された ITU-R の無線通信総会において、第 4 世代移動通信システム (IMT-Advanced) に係る勧告(M.2012)が承認されましたので、引き続き、携帯電話やブロードバンドワイヤレスアクセスを含む高度な無線通信システムの調査研究や国際標準化に積極的に取り組んで参ります。また、ネットワークに繋がれたモノ同士が人間を介せず相互に情報交換を行う M2M (Machine to Machine) 通信に関する標準化については、他の標準化団体との連携・協調のもとに検討を進めていきます。

放送分野につきましては、本年 3 月をもって全国でアナログ放送が完了いたしましたので、これにより、空いた周波数帯につきましては、今年 4 月から V-high マルチメディア放送のサービスが開始され、今後は、V-low マルチメディア放送サービスの実現に向けて検討を行って参ります。デジタル放送の高度化のための標準規格の策定等のほか、次世代の放送サービスを見据えた新たなテーマに関する調査研究に取り組めます。

ITS(Intelligent Transport Systems)及び公共ブロードバンド移動通信システムについては、引き続き標準規格の改定等についても取り組んでいきます。

さらに、ホワイトスペース (時間的・地理的・技術的条件により本来の目的とは異なる用途への利用が可能な周波数) を利用したシステムの標準化に関する検討も進めたいと思います。

電磁環境問題につきましては、電波と人体に関する問題について調査研究や広報活動を進めていきます。また、我が国の国際競争力の強化を目指して、地上デジタル放送技術等の国際普及活動に、引き続き取り組んで参ります。

このほか、照会相談業務等のコンサルティング、情報提供業務、講演会等の開催や機関誌等の発行等による普及啓発、関連海外機関との連絡協力等の事業につきましても、昨年度と同様に積極的に推進したいと存じます。

以上述べましたように、平成 24 年度も、当会に課せられました諸事業を、役職員一丸となつて積極的に取り組んで参りたいと思っておりますので、相変わらずのご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に皆様方のますますのご発展をお祈り申し上げましてご挨拶とします。

## ARIBからのお知らせ

### ARIB ニュース「会員だより」枠の創設と原稿募集について

#### 1 概要

ARIB ニュースにおいては、この 1 年 6 ヶ月の間、「私と ARIB」という枠で、ARIB 活動に積極的に参加している方々から寄稿頂き、ARIB における具体的な活動をお伝えして参りました。

これまでに、ほとんどすべての活動中の委員会、部会及び作業班についての活動をカバーしたことから、本年 4 月から、掲載を適宜とするとともに、新しく「会員だより」という枠を設けて、会員の皆様からホットな話題の提供や近況報告を行う記事を寄稿して頂き、ARIB ニュースにおいて会員相互の情報交流の場を提供させて頂くこととしました。

会員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

#### 2 記事として取り上げたい事例

- (1) 会社のユニークな取り組みや特徴をアピールしたいとき
- (2) 活動したいテーマがあり、その活動への参加を広く会員に求めたいとき
- (3) アンケートやイベントへの参加などを広く会員に求めたいとき
- (4) 新規のサービス（製品）の発表を広く会員に情報提供したいとき
- (5) その他、ARIB ニュースを通して、ビジネスパートナーのマッチングの機会を求めたいとき

#### 3 応募方法

図表やイラストなどを含めて 1 ページ（A4 版）以内にまとめて頂き、遅くとも掲載予定日の 1 週間前までに、事務局（[arib\\_news@arib.or.jp](mailto:arib_news@arib.or.jp)）まで送付頂くようお願いいたします。

#### 4 掲載の件数

「会員だより」の記事の掲載数は、1 回あたり原則 2 件までとしますが、掲載記事の内容に応じては例外的な対応も行います。

### 廃止された標準規格・技術資料の Web サイトへの復活表示について

ARIB では、2008 年 4 月から ARIB 標準規格及び技術資料を以下の Web サイトで提供してきております。

[http://www.arib.or.jp/tyosakenkyu/kikaku\\_tushin/index.html](http://www.arib.or.jp/tyosakenkyu/kikaku_tushin/index.html)

一方、廃止された標準規格及び技術資料については、この Web サイトから今まで削除してきました。しかし廃止されたものについても継続して閲覧したいとの利用者の要望があり、電子

ファイルが Web 上に残存する標準規格と技術資料を対象に、「廃止」と表記した上で 3 月 28 日から表示を復活させています。どうぞご活用ください。

なお、復活表示させた標準規格・技術資料は以下のとおりです。

- ・ RCR STD-34                      ・ ARIB STD-B15   ・ BTA F-1001                      ・ BTA T-1004
- ・ ARIB TR-B3                      ・ ARIB TR-B5                      ・ ARIB TR-B17

今後、廃止されるものについても、同様に継続表示していく予定です。

#### 復活表示の一例

標準規格 番号	標準規格名	版数 [ファイルサイズ]	改定 年月日	策定 年月日
<a href="#">STD-B15</a>	525/60及び1125/60テレビジョン方式のビット直列インタフェースにおける補助信号領域への発局IDの多重方法	廃止 (2011.09.16) <a href="#">1.1</a> [0.6MB]	1999.02.02	1997.10.07

#### ARIBの動き

### 第 190 回技術委員会（放送分野）を開催

第 190 回技術委員会（放送分野）を開催しましたので、その概要をお知らせします。

- 1 日時 平成 24 年 3 月 28 日(水) 午後 2 時から 3 時 40 分まで
- 2 場所 当会第 2 会議室
- 3 議事概要
  - (1) スタジオ設備開発部会に関する活動報告
  - (2) スタジオ設備開発部会設置要綱の改正
  - (3) 超高精細度 TV スタジオ設備開発部会に関する活動報告
  - (4) 超高精細度 TV スタジオ設備開発部会設置要綱の改正
  - (5) 放送新技術調査研究会及び公共ブロードバンド移動通信システム開発部会の設置要綱の改正
  - (6) 第 5 回 ISDB-T インターナショナルフォーラムの結果概要審議事項の議題(2),(4)については、異議なく承認されました。また、議題(5)については、会合での採決は行われず、書面による議決の結果、改正が承認されました。

### 第 94 回電波利用懇話会を開催 「700MHz 帯高度道路交通システムの標準規格の概要について」

3 月 7 日に、第 94 回電波利用懇話会を当会の会議室にて開催しました。

当会では、情報通信審議会でとりまとめられた「700MHz 帯安全運転支援通信システムの技術的条件」に関する一部答申を踏まえて、2 月 14 日に、ARIB STD-T109（700MHz 帯高度道路交通システム標準規格）と ARIB TR-T20(700MHz 帯高度道路交通システム陸上移動局の接続性確認に係る試験項目・試験条件技術資料)を策定いたしました。

今回は、標準規格の策定に積極的に取り組まれた ITS 情報通信システム推進会議 運転支援

通信システム専門委員会 標準検討 TG の佐々木 邦彦主査を講師にお迎えし、「700MHz 帯高度道路交通システムの標準規格の概要について」というテーマでご講演いただき、約 50 名の会員の皆様方に受講していただきました。

講演では、700MHz 帯高度道路交通システムの背景と利用イメージ、要件と標準化の考え、技術検証、隣接システムとの共存、ARIB STD-T109 の概要、今後の展開について内容を非常に解りやすくご説明していただきました。

全体をとおして受講者の高い関心を集め、熱心に聴講していただき、技術的条件のさらに詳しい説明などについて質疑応答が行われました。

なお、講演のプレゼンテーション資料については、当会のWebサイト「お知らせ・お問合せの講演会等開催案内 (<http://www.arib.or.jp/osirase/seminar/index.html>)」において、ダウンロード公開しています。



第 94 回電波利用懇話会の様子と講師の佐々木主査

## 会員だより

### 小型軽量化し設営作業の簡略化を図った小型衛星通信地球局の開発

日本電信電話株式会社

NTTグループは、災害発生時に備え種々の災害対策用無線システムを保有しています。中でも、「衛星通信システム」は広いエリアをカバーできる通信手段として注目されています。先の東日本大震災においても、主な避難所に電話数10回線の提供とインターネット接続とを可能にする「ポータブル衛星通信システム」を約40台設置し、発災後の約四カ月間で延べ3,600台の臨時無料公衆電話を提供しました。

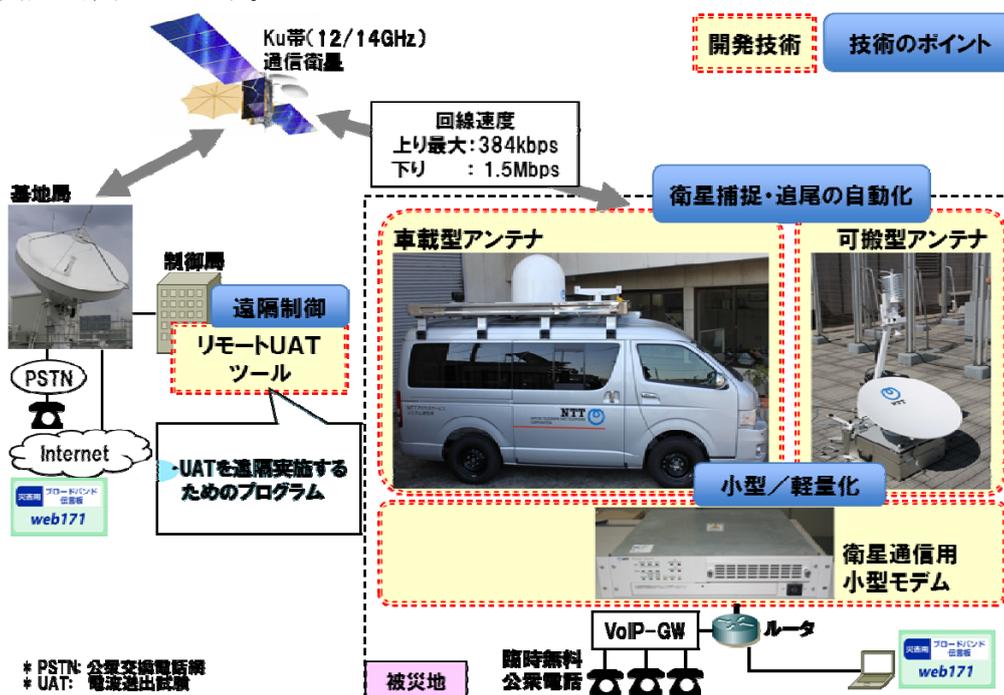
一方、これらの装置は大型で重く、運搬・設置には多くの労力を要します。また、衛星方向

にアンテナを向ける衛星捕捉は手動で行う必要があり、専門的知識や能力を持った運用者を設置場所に派遣する必要があります。今回の東日本大震災のような広域災害時には運用者の確保が難しく、少人数で運搬可能であり、専門的知識や能力を持たない人でも迅速な回線開通が可能な新しい衛星通信システムが求められていました。

NTTアクセスサービスシステム研究所では、こうした課題を解決すべく、「小型・軽量化」、「低コスト化」、「設営作業の簡略化」を実現した小型衛星通信地球局を開発しました。本システムは、被災地で運用する衛星通信用アンテナ（可搬型および車載型）、衛星通信用小型モデム及びリモートUATツール（Uplink Access Test : UAT、電波送出試験）から構成されます。

可搬型アンテナは、開口径75 cmの分割・組立式の反射鏡面を採用し、トランク収容とすることで可搬性を大幅に向上しました。被災地に到着後は工具なしで組み立てができ、組み立て完了後はボタンひとつで衛星を自動的に捕捉します。車載型アンテナは、衛星自動追尾機能を有していることに加え、現地での設営作業も不要なため、到着直後からの運用開始が可能です。衛星通信用小型モデムは、制御局からの遠隔制御に対応した機能を具備しており、リモートUATツールの利用により、これまではアンテナ設営完了後に設置箇所の運用者が実施していた回線開通のための電波送出試験を、制御局運用者のコマンド操作により遠隔実施可能としています。

これらの新機能により、これまで熟練した複数の運用者が1時間以上の時間を費やし設営、回線開通していた衛星通信システムが、特別なスキルをもたない運用者でも2名、15分程度で運用開始できるようになります。開発した小型衛星通信地球局は、今後の災害時において迅速に衛星回線を開設し被災者の方々にいち早く通信手段を提供する災害対策用システムの一つとしての貢献が期待されます。



Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS  
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-1 日土地ビル11F  
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103  
http://www.arib.or.jp E-mail arib\_news@arib.or.jp